

京都大学防災教育の会(KIDS) 活動報告について

株式会社大林組
(京都大学大学院工学研究科卒業)
堤内 隆広

本日の報告内容

- 京大防災教育の会(KIDS)について
(団体概要・設立の契機・活動の歴史)
- 2009年度のインドネシアでの防災教育活動
についての報告
- 5年間の防災教育活動を経ての総括と今後
に向けて

団体概要

- KIDS(京都大学防災教育の会)
→ Kyoto University Institution of Disaster Prevention
Schoolの略称
- スマトラ沖地震・インド洋大津波(2004年12月26日)を契機
に、2005年6月設立
- 主に小学生・中学生を対象とした防災教育を実施
- 2009年度メンバーは10人強
(学生を中心に社会人も含む。またインドネシアからの
留学生3人を含む。)

KIDS設立の契機

- 清野先生のインドネシアでの体験談より
EWBJによる防災教育活動(2005年4月)を行った
時に受けた質問

「200年も前から日本で伝わっている知識を
なぜもっと早く教えてくれなかったのか？」

↓
インドネシアでの継続的な防災教育の必要性
継続して行うためには学生の力が必要

KIDSのインドネシアでの活動履歴

- (2004年12月26日:スマトラ沖地震・インド洋大津波)
- 2005年9月:インドネシアにて初の防災教育
(バンダアチェ・メダン)
- (2006年5月27日:ジャワ島中部地震)
- 2006年9月:インドネシアにて2度目の防災教育
(バンダアチェ・ジョグジャカルタ)
- 2007年9月:インドネシアにて3度目の防災教育
(バンダアチェ・ジョグジャカルタ)
- 2008年9月:インドネシアにて4度目の防災教育
(ジョグジャカルタ・バンドン)
- 2009年9月:インドネシアにて5度目の防災教育
(ジョグジャカルタ・バリ)

2009年度のインドネシアでの 防災教育活動について

2009年度の活動日程



活動場所(ジョグジャカルタ、バリ)

- ジョグジャカルタ
- 小学校1校、ドーム型集落



活動場所(ジョグジャカルタ、バリ)

- バリ
- 孤児院、小学校1校、中学校1校



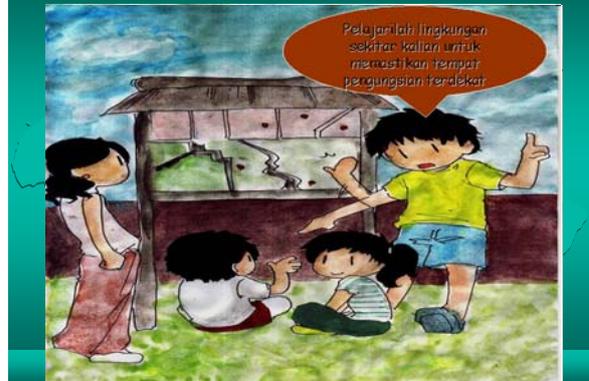
防災教育のコンテンツ

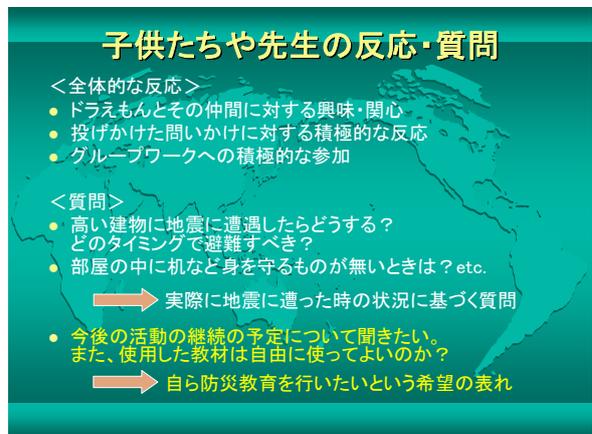
- 地震と津波の発生メカニズム
- 大きな模造紙による教材、劇による説明
- 地震時にとるべき対応(レスポンス)
- 手書きの模造紙とレスポンスの実演による説明
- グループワーク(バリでの活動のみ実施)
- 学校の周辺、部屋の中の危険箇所について考えをまとめ、発表する
- 避難場所とそこへ安全にたどり着く経路を考える
- まとめ
- メカニズム・レスポンスの内容をまとめたプリントの配布

教材(メカニズム)



教材(レスポンス)





5年間の活動を経て

<活動を継続しての手応え>

- 教材・授業内容の洗練
 - － インドネシア語スキルの向上と内容の厳選
 - － 「伝える」だけでなく「考えてもらう」防災教育
- 現地の先生や学生を活動に巻き込む足がかり
 - － グループワークを行うための先生や学生ボランティアとの連携
- 活動の必要性は間違いなくあるという再認識
 - － 継続的な活動を望む声と、教材や防災教育の行い方に対する関心

5年間の活動を経て

<活動を通じて見えてきた課題>

- 教材や教育内容の多様性・柔軟性
 - － 活動場所・対象に応じた教材・教育内容の選択の幅を広げること
 - 防災教育の「継続性」について
 - － 長期的、定期的に防災教育活動の効果を把握する必要性
 - － 自らの手で防災教育を始めたいと希望する方々のサポート
- ※「何をどのように伝えるか」という防災教育の方向性を、自らの団体の世代間でいかに共有・継承していくか

今後の活動に向けて

- 防災は「未然に災害を防ぐためのもの」
 - － 地震災害が起こったところだけで活動を行うのではなく、これから起こりうる場所にも活動の輪を広げたい
 - － 定期的な活動とのバランスの取り方を模索したい
 - 防災教育は「きっかけ作り」
 - － 限られた活動時間の中でもっと多くの先生や学生を活動に巻き込み、現地の人々の手で防災教育を継続させる足がかりとしていきたい
- <KIDSに込めた願い>
- ・ 清野先生 “**まずは10年この活動を続けたい**”
 - ・ 未来を担う子供たち(KIDS)が大人になったときに、次の世代のKIDSへ防災の知識を受け継いでもらいたい

ご清聴ありがとうございました

KIDS連絡先
tokids2005@gmail.com

(※バリの孤児院にて
授業終了後の1コマより)